

現代の詐術

坂口安吾

青空文庫

私は戦争まえまではヤミという言葉を知らなかつた。知らないということとは情ないことで、私の青年期はヨーロッパでは前大戦後の混乱をへて、どうやら立ち直りかけたころ、ニユースに文学にインフレや道德の混乱はウンザリするほど扱われていたが、戦争と死、戦争と陰謀、そんなことは考えてみても、インフレとヤミ、戦争になると百姓がもうかる、小説でよんでもピンとこない。全然読まないと同様、素通りしていたようなものだ。文学だの人間だの、人間探究のと云いながら、そして、戦争という大きないくつかの事件に就て史書をよんだりしながら、戦争の裏側の人間生活にヤミという奇怪な取引関係がつきまといつて想像

すらもできなかつた。

大化の改新によつて口分田という制度ができた。すると脱税や使役をのがれるために戸籍をごまかしたり、逃亡をやり、税のかゝらぬ寺領や貴族領へのがれたり、または私田を寄進したりする。こうして莊園が栄え、貴族栄花の時代が起り、農民は又、さらに脱税のために管理者とケツタクして、武家時代をもたらしたという。

そういう歴史を読みながら、戦争まえの私には、やっぱり激しくひびかない。

中世に座というものが起つた。猿楽座とか銀座もたぶんもとはその意味であろうが、職業組合みたいなもので、つまり自分らの

権利を他からまもる同業者の徒党的結成であり、この土地は自分らの販売の縄張りというものを一方的に勝手につくって、それを侵害する他の業者を迫害する。

こう書くともまるで無頼漢の徒党と同じことで、あっちのマーケット、こっちのマーケット、みんな縄張りがある。パンパンガールにまで縄張りがある。こういう風に言うと、職業組合をヨタモノの縄張りとはと怒る人があるかも知れない。私も昔はこんな風に悪くは解釈しておらぬ。こういう中世の組合はマルクス先生の資本論という本などにも頻りに現れる言葉であるから、私も襟を正して謹聴し、かりそめにもヨタモノ的結合など、邪推したためしはなかった。

まったく戦争という奴は、人間ばかりじゃない、学問だの教養だの、一切合財、カミシモをぬがせてしまう。サムライも戦争になるとカミシモをぬぐけれども、サムライというヨタモノと違って、学問などゝいうものはヨタモノではない、生れながらの紳士だと考えていたから、カミシモをぬぐ筈はないと安直に思っていた。これが、つまり平時の心、昔の人はうまいことを言った。タミ水錬というのである。私のようなのがタタミ水錬で、カミシモを疑うことを知らない、戦争を知らないからで、知らない、ということとは、情けないことだ。

私はオヤオヤこれはヒドイと思ったのは、国民酒場の行列で、ヨタモノが前の方を占領し、タライ廻しにする。けれども、この

ときは、まだ気がつかず、これはヨタモノのやることだと軽く考えていた。そうじゃない。

愈々タバコが少くなり、どこの店でも時間をきめて売るようになると、未明から行列する。私など、七時に売るというのに、四時から行列して買えない。勇猛心をふるい起して三時に並ぶ。ようやく一つ買える。けれども二三日すると、もう二時に列ならばないと買えなくなってしまう。

なぜ私が買えなかったか。私はつまり隣組共同戦線に敗れたのである。朝の三時といえは全然まっくらで、列んでいても、私の前後の人間のうごめきだけしか分らない。ともかく然し私は二十番目ぐらいにいる。みんな見たところヨタモノじゃなく、オジイ

サン、オバアサン、オカミサン、女学生、私をのぞくとヨタモノみたいなのは一人もいないから安心だと思つていると、そうじゃない。夜が明けると来るわ来るわ、後へ並ぶ人間より前へ割込む人間共がはるかに多い。

オバサン、こつちよ、私たちの隣組、こゝよ、と言うと、ア、そうか、案外うしろの方だね、など、言いながら、前後左右から一人三人、たちまちにして私は百番目以下になってしまうのである。

こゝに至つて、私は座の起源というものに新認識を加え、これはヨタモノの縄張りと同じものである。もつとも、組合や座がヨタモノの集りだというのじゃなくて、人間窮すればみんなヨタモ

ノである、ヨタモノの縄張りの精神に歸する、要するに、然し、窮しているからだ。

タバコが豊富にあれば、隣組座というようなものができて行列の座、まことにこれ座ではないか、文字通り座席である。座や権利を主張するには及ばない。

昔も窮していたのだろう。徒党を組んで共同戦線をはらないと、やって行かれぬ境地にあつたに相違なく、然しその結成の由来に於ては、パンパンガールの縄張りと變りのある筈はない。

だから読者諸君、銘記したまえ、戦争以来、日本は目下、中世なのである。つまり我々は父祖伝来ゆずり伝えたカミシモをつけ、もう電燈もガスも鉄道もある、道義も人情も仁愛もある、法律も

あり統制された秩序もある、だから中世じゃない、こう考えて、そのカミシモを疑うことを知らなかった。

このカミシモが今日まで伝承完成するに千年ほども時間がかゝっているのだから、これはもうカラダの一部分だというぐらいに誰しも考えていたのであったが、アニはからんや、戦争が二三年つゞくと、千年の時間がアツサリ消えてもとに戻り、我々はもうカミシモを身につけていないことに気がついたわけだ。

カミシモは時間によつて、はかるべからず。私が時間を疑うことを知ったのは、戦争のせいだ。私も青年時代はエチカだの中観論などを読んで、過去も現在も未来も疑うことができるが、疑うことのできないのはある一つの実在だけだというようなことを尤

もらしく考えることを鵜のマネしたが、私は今はもう唯物論者であり、然し、唯物論者も、歴史や時間を唯物的に疑うことができず、イヤ、疑わねばならぬ、そんなことはテンデ考えてもみませんでした。まことに、どうも、知らないということは情けない。私はつまり戦争を知らなかったからである。

目下の我々のモラルや秩序や理念だけでは、人間は窮すると中世になる。この逆転を支えるだけの実力が無い。

共産党は元々カミシモを持たないから、卒直単純に中世で、共産党の組合の指導寸法というものは、一方的に座の利益を主張するものだから、やっぱり隣組のタバコ座やラク町のパンパン座と本質に於て変りはない。

私は中世は好きではない。隣組のタバコ座は好きではないのだ。私がかのオバサン座に常に惨敗のウキメをみたヒガミではないのである。

然し、窮すれば、中世になる。この転落を防ぐ真に實力ある方は、目下のところ、モラルや理論ではどうにもならず、窮しなければ中世にならない。それ以外には外に方法もないように見える。

窮すれば中世になるということは、察しなければならぬといふことで、だから目下、ヤミ屋は中世ではなく、常にブルジョアには中世の精神は分らない。不思議にも、ブルジョアならぬ私、常に窮していた私が、尚かつ平和時代に於ては中世の精神をさと

るに至らなかつたとは、まことに意外千万だ。

私は然し、常に窮しながら、あえて中世に節を屈しなかつた私の方に、いくらか取柄があるのだと考える。

一方的に自分の利益だけを主張する、ということには、これを自分一人でやる場合には非常に勇気がいるのである。ところが徒党を結んでやる場合には、全然勇気がいらぬ。

孔子もキリストも古代の思想で、これは人間一個自立自存の思想であるから、勇猛心を代償として尚かつ我利我利妄者であるべきかという豪傑と仁義に関する思想であり、さすがに中世ともなれば進歩したもので、勇気などは始めからもうアパイで、狡智、策戦、たちどころに徒党を結んで、商人は商人の座、工人は工人

の座、パンパンはパンパン座、オカミサンは隣組座、みんなこれをやる。

キリストが原人的であるのに比べると、孔子はよほど社会人的であるけれども、徒党精神の味方ではない。

私も中世を好まない。中世よりも古代、原人の倫理を好み、世に復帰するなら古代に、まず原人に復帰したいと考える。カミシモをぬぐなら、カミシモだけぬいで中世にとゞまるよりも、フンドシまでぬいで原人まで戻ろうというのが私の愛する方法だ。

私が未明の二時三時に行列して一個のタバコが買えなかったころ、隣組座の横暴もあつたけれども、又一方には百個のタバコの五十個を店主が知人やオトクイに流すということも公然のことで

あつた。然しこのころはタバコ屋はまだヤミをやつてはいなかつた。ヤミ値で売つてるわけではなく、知人への義理人情、オトクイへの義理人情、そういう性質のものであつた。

戦争中はまだ旧秩序への復帰ということが前提されていたから、オトクイはやがて再びオトクイとなる、知人はやがて恩を返す、そういう未来への打算があつたのであるが、今はもうオトクイは破産し、知人もヤミ屋となり、旧秩序への復帰の前提が失われたから、みんな中世の座をくんだり、野武士となつたり、それぞれ中世の方式通りに活躍遊ばされておる、クモは生れながらにして巢をくむが、人間は戦争に負けると、おのずから中世となる。蜂須賀小六はもう八方に野武士から一国一城のあるじとなりかけて

いるのである。

パンパン座やマーケット座や隣組座や従業員組合座が中世的であるとすれば、ヤミ屋は個人的である点で、まだ、いくらか古代的であり、原人の勇猛心を必要とする。

けだし古代というものは、人間がその原罪とか悪と戦ったもので、人間はすべて罪人であり、救世主に縋らずして自らの罪を救い得ぬ迷える羊であるけれども、中世の徒党精神には原罪がきれいに切り放されており、自らの罪を自覚する必要もなく、たゞ自分の権利を主張すればよい。だから従業員組合座もマーケット座も原罪の自覚などに関するところは毛頭ないが、ヤミ屋の方は古代だから罪と争う。大いに勇猛心があるのである。

ヤミ屋がいゝか、座がいゝか、いったい、どっちがいゝのであるか。両方ともに、よろしくない。しかし、ともかく、黒白をつける必要があるではないか。



狸御殿の殿様は法廷でうまいことを言っている。殿様曰く、自分は商品を納める約束で金を貰った、たまたま当にしていた紙がすぐ手にはいらず、約束を履行しないうちに捕まったゞけで、もうちよつと時間があればやがて約束を履行し得た見込みであり、したがって、合法的な商取引であり、たまたままだ約束を果して

いなかっただけのこと、サギではない、と。

然し法廷というところはトノサマの胸を解剖して心理を判断するという直接の方法を用いる術のないところで、人間の心理は、こう思った、思わなかった、それを直接つかまえ突きとめるといふ術はない。

だから側面から調べる。トノサマがどこそこの倉庫に紙があると云った、その倉庫に紙があり、それをトノサマが動かす力があったか、もしあればトノサマはいつか約束を履行するつもりであったかも知れない。倉庫に紙はなかった、そうなるとトノサマは怪しい。けれどもトノサマは倉庫に紙があると信じていた。そして信ずべき条件が揃っている、たとえばトノサマは誰かにだまされ

れ、そこに紙があるものと思いこまされていた、そうなるトノサマはサギ師でなく商取引の約束をまだ果していなかった、それだけだ、という弁解が成立つ可能性がある。

世耕事件の静岡の糖蜜問題がこのデンの好見本で、世耕氏へこの情報がくるまでに有村とか、佐伯、宮川、米本、渋谷、前田、永田などトリレーがあり、結局モトは矢島松朗というサギ師の組んだ仕事で、矢島のいう砂糖は実在するものではなかったが、三宅男爵という架空の人物や一条公爵など、いう名が利用されて効果をあげ、人々はその品物が実在するものだと思っていた。つまり矢島だけがサギ師であり、他の人々はサギにかゝった被害者だということになる。

このサギの性格は、又、これを利用するに大いに便利で、つまり倉庫に商品がないと分つていても、あると信じる条件がありさえすれば、自分にサギの意志はなかったと弁解できる性質のもので、世耕情報以来ブローカーの暗躍がものすごかったというが、要するに商品は実在しないのである。然し、私は実在すると思つた、あの男からきいたから。その男は又、私は別のあの人からきいた、私も実在すると思つていた、みんな、こう答える。実在すると思ひこんでいたとなればサギではないと言ひ張る方便があるから、人からきいた、そして信じた、みんなカンタンに信じた信じたと言う。

だからブローカーは現物など問題じゃない、情報を信じること

が大切で、情報がうまく出来ていれば金になる、この連中は法律の知識もあり、罪にならない条件をなんとか用意する策戦はぬかりなく心得ている。

昔からありふれたのに手金サギというのがあったが、近ごろのは全額前払い、そう変ったゞけなのだろう。

昔は物が有り余っていたから、商人は売りこむのに苦心サンタ、たいがい勘定はアト払いで、手金などタカの知れたものだから、こんなサギはお歴々はおやりにならない。ちかごろは前代議士とか、取締役社長、そういう然るべきトノサマがやる。

トノサマとは何ぞや。だから私が前章に於てルル申し述べてある通り、目下は中世で、マーケット座、隣組座、野武士、群盗の

世界であつて、もうトノサマはおらぬ。残念ながら人間もおらぬ。組合員はおるけれども、人間はおらぬ。中世に逆転したが、古代には逆転しなかつたからである。

マーケット座の社長が代議士に当選すれば言うまでもなく代議士ではないか。

マーケット座の社長は落選したが、これに類する社長が代議士に当選したのは今までに例の多いことであり、選挙というものはバカバカしいものだ。

然し代議士に限らない。万事センデン、粗悪品でも一応はセンデンでうれる。商業もそうであり、売薬、映画、化粧品、小説も御同様、みんな一応代議士と変りはない。

然し、いくらセンデンしても、本当に粗悪な商品は結局うれなくなる。蚊の落ちない蚊トリセンコウ、火のつかないマッチ、こんなものは人は買わない。配給だから泣寝入り、目下中世であるから、政府も地頭と変りはなく、申すまでもなく野武士の一味で、火のつかないマッチを買わせる腕力があるのである。

隣組座のオバサンたちには石ケンやマッチの粗悪品はすぐ分るけれども、代議士の粗悪品は分らない。婦人代議士がとたんに三十何人もできあがる。各人一票の公平なる選挙、あんなヨタモノが代議士になるとは、あゝ、なんたることか、そんなバカな大衆の投ずる一票の責任をも余が負わねばならぬか、と云つて怒つても仕方がない。

社会生活とはそういうものだ。オレはエライと思う。大衆はバカだと思う。ちよつと理窟屋の日本人はすぐそう考えて、世をガイタンし、拙者の選ぶものが正しいとくる。たちまちファツシヨである。

オレが果してなぜエライのか。少しばかりケイザイの本をよみ、歴史をよみ、政治に就て信ずるところがある。だからエライ。狸御殿のトノサマの陳述と同じことで、胸を切りひらいて、エライかエラクないか、判定するという術はない。

そんなアイマイなことよりも、オレよりも大衆がエライという事実を知ることが大事だろう。古代の農民が税や使役と戦い、悪戦苦闘、浪流逃亡、戸籍をごまかし、それが結局に於て権力を左

右する結果となっている。貴族が栄え、やがて衰え、武士が起つた。農民の脱税行為が実は日本の歴史を動かしていた。大衆とは、そういうものだ。

狸御殿のトノサマも、そのうち代議士ぐらいになるかも知れぬ。トノサマがなるといふのは大衆がさせることでもある。トノサマだから参議院かも知れぬ。それでいゝではないか。なぜいゝか。大衆が選んだ、そして、そうなったから。

自分一人がエライと思うな。オレはエライ、大衆はバカだ、そんなことを言う奴は、私はキライだ。そういう奴はすぐ道徳的、一人よがりの顔をし、権力をふり廻し、小役人根性を現し、ファツシヨとなる。誰もエラクはない。

戦争中は四王天というユダヤ退治の中将が日本一の票数で代議士になった。それでいゝではないか。大衆は権力に追いまくられ、その命にたゞこれしたが、左へ右へ、たよらない。けれども結局は権力にもみぬかれてゐる大衆が、権力をうごかしている、そういう姿が現れてくる。歴史というものゝ姿である。

大衆とは何であるか。政治も知らぬ。文学も知らぬ。国の悲劇的な運命も知らぬ。然し、大衆は生活している。

ウマイモノが食べられない。そんな日本は負けてなくなれ。大衆はそういうものだ。日本が亡びてもウマイモノがたべたい。あの人と一緒にいたい。

その大衆は又、あの戦火にやかれ、危く生き残つて、黙々、嬉

々たる大衆である。彼らの生活力は驚くべきものだ。この欠配に、
どうして生きているか。生きているではないか。誰も革命は起さ
ない。平然と生きている。生きられる筈はないではないか。額面
通りなら、どうしても、死なねばならぬ。政治などは何のたしに
もならぬ。平然として生きているものは大衆である。

オレはエライ。大衆は何たるバカだ。そういう者は再び東条英
機となるだけだ。その部下のモロモロの小役人になるだけなので
ある。

正しい思想というものは、オレと大衆の優劣感のあるところか
ら生れたものではあり得ない。大衆の代りにブルジョアがあつて
もならぬ。つまり、たゞ人間、キリストは原罪をとき、孔子は生

活の原理に仁を見た。ともかく人間から出発しなければならぬ。何千年逆転してもかまわぬ。モロモロの何千年の時間、カミシモはすべてムダであつたと見なければならぬ。

大衆は原人であるか。原始人ではない。又、原人でもない。つまり中世的原人だ。貴族の権力に追いまくられて脱税逃亡、戸籍をごまかし、供出をごまかし、あらゆる手をつくしてゴマカシまわり、徒党をくんでタバコを買い占め、パンパン座をつくる、根は中世的原人で、電燈とガスがなければローソクと薪で間に合い、人生それだけのものときまれば、それだけで済む、自ら電燈もガスも発明することのない中世紀人である。

然し、インテリも、文明知識をひそかにタノミとしていたが、

戦争に負けてみると、やっぱり中世の人間にすぎないことが明らかとなった。

やっぱり中世にもインテリはいたし、善人もいた。ユダヤ博士はキリストに呪われ、善人どもは親鸞の一喝をくらい、善人なおもて往生をとぐ、危いところで素懐を遂げさせてもらうことができたという始末なのである。

ユダヤ博士というのは、まあ今日では哲学博士になるのだろうが、親鸞の危く往生をとげつゝある善人というのは、今日で云うと、やたらに眉をしかめて、道義のタイハイを怒り咒い、ヤミ屋を憎み、パンパンを憎み、エロを憎み、グロを憎み、ストライキを憎み、聖人たるものこう憎みが多くてはこまる、けれども憎ま

ずにいられぬ。善人ともなれば心は大いなる憂いに閉され、悩みの休まる時はない。

新憲法で、サムライと町人の区別がなくなり、宮様もなくなつた、みんな人間だ、天皇も人間だ、みんなそうだと思つてゐるが、みんなそうだと思つていやしない。

先ず新聞を見る。サギの容疑者、前代議士何々氏とある。ピストル強盗容疑者何々、とある。善いことをした人でも、会社員以上は何々氏、運転手なら何々君、とある。

そこで正義派のインテリ先生がフンガイに及んで、氏と君の區別は何ぞや、と怒る。悪漢に氏とは何ぞや、悪漢はヨビステにしる、代議士でもヨビステにしる、善良な市民はみんな氏をつけろ。

なぜ犯罪者をヨビステにしなければならぬか。犯罪は憎むべきである。然し、罪を犯さぬ人間がおるか。隣組座もパンパン座も神の座席に於ては同じ罪人ではないのか。ヤミの米を食うことも罪ではないか。万人がヤミの米を食う、そうしなければ生きられない、そうしなければ生きられない、そうしなければ生きられないなら罪を犯してもいゝか、それは罪ではないのか。

あらゆる人間というものが、あらゆる罪人を自分の心に持つてゐるものだ。小平も樋口も我々の心に棲んでゐる。時にはいさゝか突拍子もない事件がある。ある母親がママ子を殺し、実子と共に、ママ子の肉を三日にわたつて煮て食つたという、こんな犯罪はアタシたちはやらないね、こんな鬼はアタシの中に住んでいま

せんよ。然し貴嬢の仰おっしゃ有るのは犯罪の問題じゃない。誰でも人間の肉が食いたいと思うわけじゃない。食用蛙の嫌いな者はどうしても食いたくない。食慾を感ぜぬ。これは味覚の問題だ。犯罪の問題ではない。犯罪は誰の心にも住んでいる。

人間はみな同じものだ。総理大臣が片山氏なら、盜姦殺人小平氏、死刑になつても小平氏でなければならぬ。東条英機氏でなければならぬ。

人間性は万人に於て変りはない。罪人に於ても聖人に於ても変りはない。この自覚の行われざる社会に於て、いかなるカミシモをつくりだしても、折あれば中世の群盜精神へ逆転する、それだけのものにすぎないのである。



私はいわゆる人情という奴が好きでない。私はタバコの行列で
人情的横流しと隣組座の横暴になやまされたが、私の近所の病人
の爺さん婆さんのやってる一番小さなタバコ屋、配給がよそが五
百、少くて百というのに三十だの二十しかないような店、こゝの
老人がどういいうわけだか私に同情して、ある時私にソツと云った。
いつでもおいで、キンシをとっておくから、と。そして、どこが
悪いのかネ、と云ったが私は返事をしなかった。

私は病んではなかったけれども、戦争中はまったく栄養失調だ

ったかも知れない。何一つ特配というものがない。主食にカボチヤや豆ばかり食い、一ヶ月に一度イワシを食べさせてもらえば大したものだという状態で、タバコ屋の老人は私を病人と思つて大いに同情をよせてくれたものらしい。

私はタバコは欲しかつたが、同情にすぎるだけの勇氣がない。悪意ならまだ貰つてやるという氣持になれるが、人情にはついて行けない。ヤミ値なら、私の日頃用いるところだけでも、尤も当時はヤミのタバコを買うほどの金もなかつた。

このタバコ屋の老人に関する限り、私への同情は極めて純粹なものだつた。私がどこの馬の骨だか、住所も名前も職業も知りやせぬ。ただ病人らしさと貧乏らしさに同情してくれたゞけの、恩

を売って為にするというようなところの何もない性質のものだつた。

ヤミ値なら応じうる、為にするつもりならそれに応えることによつて取引しうる。純粹な同情にはこつちがハニカミ、恐縮するばかり、一般に文士などという私らの仲間はみんなそんなものじゃないかと思われる。

私が親切な気持ちに応じなかつたものだから、その後、風呂へ行くと老人などにたまに会うことがあると、私をジロリと見て顔をそむける。まことに、つらい。

私はこういう素朴な人情は知性的にハッキリ処理することが大切だと考える。人情や愛情は小出しにすべきものじゃない。全我

的なもので、そのモノと共に全我を賭けるものでなければならぬ。さもなければ、人情も愛もウス汚くよごれているだけのこと、そういう気分的なものは、ハッキリ物質的に換算する方がよろしい。だから私はこういう人情の世界に生きるよりも、現今のような唯物的な人間関係の方が生き易い。タバコを横流しにするなら、人情的に公定価で売るよりも、ハッキリとヤミ値で売ってもらう方がいゝ。どっちも罪悪であるが、善人的に罪悪であるよりも悪人的に罪悪である方がハッキリしており、清潔である。

法律は公価で人情で流す方を軽く罰するであろうが、神前の座席に於ては軽重のある筈はなく、善人的であることによつてわが罪をも悟らぬというその蒙昧は、これも亦、さらに一つの罪であ

るから、私はハッキリ悪人的に犯罪する方が清潔でいゝと考える。蒙昧は罪悪である。善人的蒙昧は罪が深い。罪は常に自覺せられなければならぬ。

人が自らの利益のみを一方的に主張するには勇猛心がいる。然し徒党をくんでこれを為す時には勇氣はいらぬ。隣組座、マーケツト座、この組合的結合には、やっぱり善人的蒙昧がある。他の立場に対する省察、自我、我慾、罪への批判、全般的情勢に就ての公平なる觀察、それらのものは、もはや必要ではない。それらのものが有るならば、人は勇氣なくして我慾を主張しうるものではない。

即ち既に中世より、古代より、かゝる善人はたくさんいた。善

人尚もて往生を遂ぐ、即ち危く素懐をとげる、いわんや悪人をや。

わが罪を自覚する故に、悲愴に又勇猛心をもつて悪へ踏みきる罪の子は、神前の座席に於ては善人よりも愛せられるのである。

ヤミ屋が横行する、善人が貧乏する、不思議な世だ、道義タイハイ、末世の相だというけれども、我々は今始めてそうなのではなく、元々それだけの中世人でしかなかったのです、往時は電車が混雑しておらなかったから押しとばし突き倒す必要はなかった、米はいくらもあつたからヤミ屋はなかった、その代り働いても食えない人間や働きたくても働く口のない人間があつたが、当時はヤミをやればすぐ食えるという便利な道がないからクビでもククルより外に仕方がなかった、そういうわけで、ヤミ屋という職域

がなかったからヤミ屋がいなかっただけで、ヤミ屋をやりたい人間がいなかったわけじゃない。

物資があり余ればヤミ屋はなくなるにきまっている。電車が混雑しなくなれば誰も押しとばしやしない。自然そのまゝで、人為的などころはない。タイハイでも何でもなし。自然現象のようなものだ。

返事の仕方がおくれた、ちよつと言いよどんだと云つて兵隊をヒツパタク、蹴とばす、そういう秩序の方がよつぽど道義タイハイじゃないか。権力によって人間を征服し飼ひ馴らす秩序が何物であるか。

ヤミ屋だのパンパンだのと敗戦の天然自然の副産物は罪惡的な

ところは殆どない。我々小人の日常には、やむを得なければ立小便もやる、急ぐ時は信号を無視してかける、ヤミ屋やパンパン程度の罪は万人が殆ど例外なく犯している。

これにくらべれば、自ら大罪を自覚して犯しながら美名をつくることを知り、法律の裏をくぐる用意を知り、権力を利用することを知り、依存することを知り、国法を利用することをも知る、政治家の罪悪などは比較にならぬ悪ではないか。

世耕事件は今日に始まるサギの性格ではない。いつの世にも、サギはあのようなものであり、政治の裏側には似たようなことが行われていた。マーケット座の親分が一千万円献金して公認候補になったという。そういう事柄がサギの母胎ではないか。サギの

性格を助成するものが政治の在り方ではないか。

パンパンやヤミ屋を憎み咎める声は巷に溢れているが、かゝる政党の在り方を咒う声は殆どない。なぜであるか。権力ある者は、その子供の罪まで警官が見逃すという、日本人は昔から泣く子と地頭に勝たれぬ、権力崇拜家であり、さればこそ権力には盲目的に屈服し、したがって又、自らが権力を握れば、これをフリ廻して怪しまない。

私のところではノベツ停電するから、停電を何より怖れる私はガスもでず薪もないが電気コンロを使わせない。すると未明に私の家の塀を破って持って逃げる奴がある。まったく無理もなからう。然し、塀を破られてはコツチも困るから、ガラリと窓をあけ

てコラと云つたら逃げることに逃げることに、私は朝まで起きているから、あんな乱暴な音をバリバリ、とたんに分る、慌てゝ盗む初心者にきまつている。窮すれば、ぜひもない。

然し、窮すれば是非もない、というので罪を犯すことは許されない。だから、犯人は雲を霞と逃げる。仕方がネエや、盗む方が悪いか、と云つて私に食つてかゝりやしない。

けれども、電燈をとめているオカミの方では、石炭がない、水量がない、ないものは仕方がない、窮しているから是非もない。あたりまえだ、という。

米がない、ないから仕方がない、欠配だ、という。泥棒は居直らず逃げるけれども、オカミは居直る。狸御殿のトノサマは約束

の品物を渡さないカドによつてサギだというのが、オカミは約束の品物をくれない、金はとらないからサギじゃないのかな、然しサギの性格で、尚その上に、自らの罪を自覚することを知らず、国民に耐乏をとき、道義のタイハイを説教することも忘れない。

役所のやることに不服があつて役所へ談判に行くと、こつちは知らない、もつと上の役所からの指示だという。

軍服事件だの何々事件の連中も、私は知らない、あの人がある倉庫にあると云つた、だから有るものと信じた、と云う。サギ事件、役所の役人、同じ性格じゃないか。どこにも道義など有りやせぬ。

パンパン、ヤミ屋と、オカミのやることゝ、どつちが道義タイ

ハイしているか。

パンパンをやるには勇氣がいる。ヤミ屋となるにも勇氣がいる。罪や転落と戦う大勇猛心がいる。役人にはいらぬ。役所という座席に坐ることによつて、罪を自覚することもいらぬばかりか、わが欠配を強要し、それに服せざることが悪徳であると言うことすらできる。

私は然し、それが大罪だと云うのではない。大罪ではない。自らの罪を自覚せざる点に於て、隣組座やマーケット座と同じ罪であり、自らの罪を自覚して自らの心と戦うヤミ屋やパンパンより、ちよつと悪いだけである。

ヤミ屋は敗戦後の産物だが、政治家になると金がもうかる、こ

れをヤミだとは昔は言う言葉がなかったが、これもヤミではないか。正規の取引関係、税務署の台帳にのる所得じゃない。さすればヤミ屋というのは昔から別のところにちやんと存在したことで、今日道義がタイハイしたわけではない、昔からタイハイしていた。昔から中世であった。中世のまゝ、借り物のカミシモをきていたゞけで、中味は変わっておらなかった。国全体がサギの性格でありヤミの性格。パンパンの性格にすぎないようなものではないか。

璽光尊じこうの性格と天皇の性格にも変りはない。戦争中カシワ手かしわてならして、国民儀礼をやり、電車の中で人の尻ごしにペコリと宮城へ頭を下げる、今どき直訴する者がある、米を献納する者がある、これを美談だという。この性格と璽光様とは変らぬ。

我々中世人日本の国はまだ自らの蒙昧を自覚するところにも至つておらぬ。蒙昧とは罪悪であることも自覚されず、人間を、又その原罪を自覚することも始まつてはおらぬ。

自らの罪深き心を自覚することなくして、我々が中世人から脱することはできやしない。私も亦親鸞にならつて言うことを辞せぬ、敗戦後の日本に於て、タイハイしているのは善人どもだ。パンパングールよりも日本の役人の性格、善人の性格の方がタイハイしている、日本一国のモラルや秩序そのものがタイハイしている。

自らの罪人たるを自覚せずして、眞実の思想も理想も有り得るものじゃない。

青空文庫情報

底本：「坂口安吾全集 06」筑摩書房

1998（平成10）年7月20日初版第1刷発行

底本の親本：「個性 第一巻第一号」思索社

1947（昭和22）年12月15日発行

初出：「個性 第一巻第一号」思索社

1947（昭和22）年12月15日発行

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。

入力・tatsuki

校正：小林繁雄

2007年2月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

現代の詐術

坂口安吾

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>